

第65回ITER機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成25年9月3日(火)～5日(木)

八戸工業大学（日本原子力学会「2013 秋の大会」会場）

2. 来訪者：20名

3. 説明概要：

日本原子力学会「2013秋の大会」会場において、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明を行った。

(ITER統合支援グループ 森山、ITER計画管理グループ 齋藤)

4. 主なQ&A

Q:ITERは何の略称ですか？

A:もともと、International Thermonuclear Experimental Reactor(国際熱核融合実験炉)の略でしたが、近年直接ITERあるいはイーターと呼称しています。なおITERには、ラテン語で「道」という意味があります。

Q:日本から ITER 機構へは何人派遣されていますか？

A:ITER 機構の職員総数は 2013 年 6 月末現在で 483 人です。専門職員が 314 名、支援職員が 169 名です。日本からは 29 名の研究者・技術者が専門職員として ITER の建設活動に従事しています。支援職員は 6 名です。日本国籍の方の割合は、専門職員が 9.2%程度となっています。より多くの日本人が ITER 機構で働けるよう支援を行っております。

Q:ITER はいつ完成するのですか？

A:2020年に最初のプラズマを点火することを目指して、装置建設が進んでいます。その後、重水素を使った運転を経て、2027年にトリチウムを用いた運転が開始される予定です。

Q:日本の機器の分担について教えてください。

A:日本が分担する調達機器は、多岐にわたります。中心ソレノイド、トロイダル磁場コイル、トリチウムプラント設備、ブランケット遠隔保守機器、ダイバータ、高周波加熱装置、中性粒子加熱装置、計測装置などです。

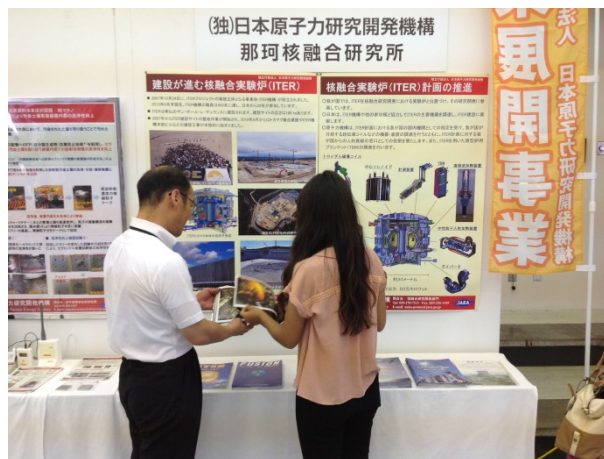
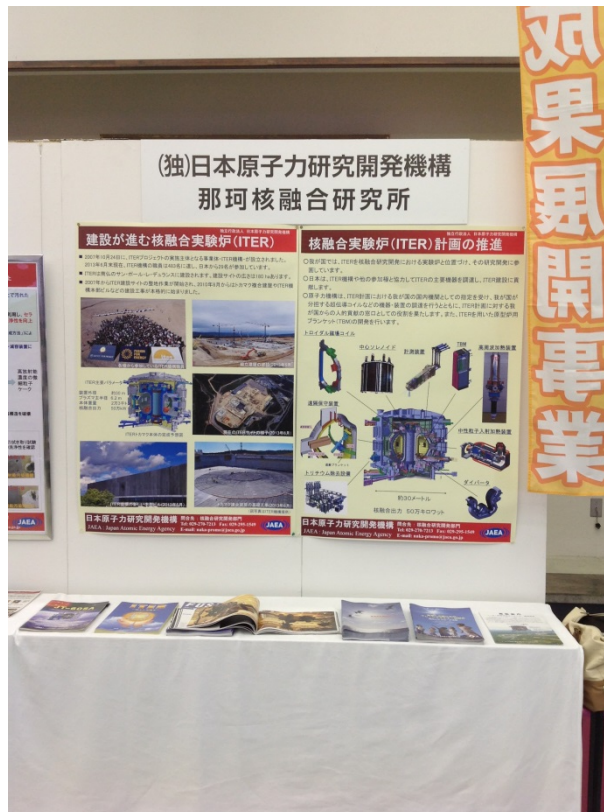
Q:ITER ではどのくらいの量のトリチウムを使用しますか？

A:ITER 安全指針では、トカマク内のトリチウム保有量の最大値を 1kg と設定しており、これを超えないよう管理されます。また、DT運転中におけるトリチウムの量は、燃料サイクル全体で約 400gになると予測されています。

Q:カダラッシュとサン・ポール・レ・デュランスの違いは何ですか？

A:いずれも ITER 建設地の呼称です。カダラッシュは地元の呼称であり、サン・ポール・レ・デュランスは行政住所です。尚、近年 ITER 建設地の呼称は、ITER 機構の表記に合わせ、これまでの“カダラッシュ”(地元の呼称) から“サン・ポール・レ・デュランス”(行政住所) へ変更しています。

以上



日本原子力学会「2013 秋の大会」会場の様子